

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブソリューションサービーズ
東京都港区東新橋1-9-1

今週の注目材料=米、欧、日の金融政策会合並ぶ

2023年7月24日

今週は25日、26日に米連邦公開市場委員会(FOMC)、27日にECB理事会、27日、28日に日銀金融政策決定会合と、三大通貨の中銀金融政策会合がそろい踏みの週となっています。

FOMCでは0.25%の利上げがほぼ確実視されています。注目は声明と会合後の議長会見です(今回はメンバーによる経済見通しの発表はありません)。

前回のパウエル議長の会見や、参加メンバーによる経済見通しの中で示された今年年末時点での政策金利水準見通し(ドットプロット)では、利上げの継続が示されています。しかし、市場では今回の利上げで打ち止めになるとの見方が広がっています。短期金利市場では約70%が今回の利上げでの打ち止めに織り込んでいます。30日物FF金利先物市場動向からの利上げ割合を示すCMEFedWatchでも約66%が打ち止めを見込んでいます。

こうした見方の背景には、直近の物価上昇の鈍化があります。12日に発表された6月の米消費者物価指数(CPI)は前年比+3.0%と5月の+4.0%から大きく鈍化。コア指数も前年比+4.8%と5月の+5.3%から大きく鈍化しました。ともに市場予想を超える鈍化となっています。米国のインフレターゲットの対象はPCEデフレータであってCPIではありませんが、変化動向は似ている為、CPIの大きな鈍化が市場の利上げ打ち止め期待につながりました。

ただ、コアはともかくCPI全体の鈍化はエネルギー価格によるところが大きいです。6月のCPIでは、ガソリンが前年比-26.5%、エネルギー全体でも-16.7%と大きな低下を見せました。ガソリンは5か月連続、エネルギー全体は4か月連続でのマイナス圏ですが、5月と比べても下落率が大きくなっています。ただ、直近のエネルギー価格の前年比でのマイナスは、昨年の価格がウクライナ情勢の影響で高騰していた反動という面が大きく、ある意味で特殊事情です。

6月に関しては食品とエネルギーを除いたコアも大きく落ちたため、今回の利上げでの打ち止め期待につながっていますが、ただコアに関しては水準的にはまだかなり高くなっています。そのため今回の利上げの後、年内もう一度の利上げを行う可能性が十分にあるという見方が残っています。

今回の声明や議長会見で前回までの追加利上げに積極的な姿勢が維持されるかが注目されることです。

ECB理事会も0.25%の利上げが確実視されています。こちらは現行が主要金利であるリバースレポ金利で4.00%、実勢に近い中銀預金ファシリティ金利が3.5%と、米国などと比べて低いところに抑えられていることもあり、年内もう一回の利上げが見込まれています。

ユーロ圏の6月の消費者物価指数は前年比5.5%、コア前年比も同水準です。ピークとなった昨年秋の10%超えからは鈍化してきていますが、米国と比べてもまだ高い水準。またコアに関しては5月の+5.3%から上昇しており、物価の高止まり傾向が見られるだけに、今回の利上げ及びあと一回程度の利上げはありそうな状況です。

もともと米国に比べて景気鈍化懸念が強いことがネックになっています。ドイツやオランダといった比較的経済の強い国はともかく、南欧を中心に厳しい状況が見られ、積極的な引き締めハードルとなっています。短期金利市場では年内あと1回の利上げを88%程度とほとんど織り込んでいますが、9月は一回お休みで10月か12月という見方が強いです。会合後の声明や、ラガルド総裁の会見で今後どのような姿勢を示してくるのかが注目されます。

日銀金融政策決定会合は現状維持見通しが広がっています。海外勢を中心に今回の会合でYCCの修正が行われるという期待が一時強まり、今月ドル円が137円台を付けた材料の一つとなりました。

しかし植田日銀総裁がG20後の記者会見で粘り強い緩和を続ける姿勢を改めて表明したことで期待が後退。さらに21日に日銀関係者筋情報として「YCC修正の必要性乏しいと見ている」と報じられたことで、さらに期待が後退しました。日本勢はもともと現状維持見通しが強かったこともあり、現状維持見通しでほぼ一致する状況となっています。

注目は声明や会見で、今後のYCC修正に向けた道筋が見られるかどうか。ただ、当面の緩和維持姿勢を示す可能性が高く、無風で終わる可能性が高いです。その場合、円売りの動きがどこまで進むのかが注目ポイントとなります。一気の円売りが進んだ場合は、介入警戒感も出てきますので、動きには要注意です。

山岡和雅 | ミンカブソリューションサービシーズ 編集長

1992年チエスマンハットン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。